



公開研究会

仮設リユースのすゝめ

- 居住の安定をめぐる視点 (1) -

東日本大震災にともなって建設された約5万戸の仮設住宅は、5年が経とうとしている現在もなお、多くが被災者の仮住まいとして使用されている。その一方、地域によっては、自力再建や災害公営住宅への入居が進み、空き室が多くなった仮設住宅団地の撤去や解体が始まっている。またそれにもなつて使用済み仮設住宅の処理のしかたが問題となりつつある。福島等ではリユースを想定した構法や素材が用いられた木造仮設住宅が採用されてきたが、それでもリユースのニーズが顕在化しない限りは、そのほとんどが廃棄される可能性もある。住まいとしては人気のなかった鋼製プレハブ仮設も、まだまだ使用できそうに見える。地球環境への配慮を鑑みるならば、リユース促進の道筋を積極的に考えてみる必要がある。またそうすることで、日常のなかの仮設建築の利用価値が拡張され、そのための計画技術の向上も期待できよう。そこで本公開研究会では、ワーキンググループメンバーで情報収集してきた国内仮設リユースの事例に加え、米国の仮設リユース事情、福島木造仮設のリユース計画の現状等の報告を通して、仮設リユースの価値、促進方法、求められる研究テーマなどについて、フロアを巻き込んで意見交換していきたい。

日時：2016年3月14日(月) 18:30～20:30

会場：建築会館会議室(港区芝5-26-20)

<プログラム>

主旨説明・進行：新井 信幸(主査：東北工業大学)

主題解説：

1. 仮) 仮設リユーススタディ 岩佐明彦(法政大学)
2. 仮) 100年前の米国仮設のリユース リズ・マリー(東北大学)
3. 仮) 福島木造仮設のリユースの行方 芳賀沼整(建築家)

ディスカッション

まとめ：藤岡 泰寛(横浜国立大学)

参加費：会員1,000円、会員外1,500円、学生500円(資料代含む/当日会場払い)

定員：30名(申込み先着順)

申込方法：Web 申し込み <https://www.aj.or.jp/index/?se=sho&id=936> よりお申し込みください

申込問合せ：日本建築学会事務局 事業グループ 榎本

TEL：03-3456-2051 E-mail：enomoto@aj.or.jp

主催：建築計画委員会 住宅計画運営委員会 コミュニティ居住小委員